

海外学術雑誌における日本の知的障害に関する研究論文

—2007年以降のERIC検索結果を中心に—

高野聡子

(東洋大学文学部)

KEY WORDS: 知的障害、海外学術雑誌、特別支援教育

1. 本発表の目的

インクルーシブ教育が欧米諸国を中心とするグローバルスタンダードな教育理論・制度とされる中で、日本の特別支援教育は国際社会においてどのように認識され、評価されているのだろうか。本発表では昨年の発表に引き続き、日本の特別支援教育に関するどのような内容が国際社会に向けて発信されてきたかを検討し、国際社会が特別支援教育をどのように認識しているのかについて検討する¹⁾。

とりわけ、本発表では日本の知的障害に関する論文を対象に分析する。対象を知的障害に限定する理由は、知的障害は、特別支援学校の設置基準学級数と在籍児童生徒数が最も多いからである。また、日本の障害児教育は各障害種別でその教育内容と方法が考案され、実践されてきた経緯を持つ。したがって本発表では、日本の障害児教育の歴史的背景を考慮し、昨年の発表における検索キーワードでは明らかに出来なかった障害種別という視点に着目することにした。

2. 本発表の方法

教育に関する論文データベース ERIC(アメリカ教育省による Education Resource Information Center)を使用し論文を検索した。検索年は特別支援教育がスタートした2007年以降とし、知的障害に関する検索キーワードを① intellectual disabilities and Japan、② mental retardation and Japanとした(最終検索日2017年3月16日)。検索結果の中からジャーナルのみを抽出し、アブストラクや本文を参照した上で、日本の知的障害に関する論文を選択し、論文の内容を文献研究の方法で分析した。

3. 論文の検索結果

検索の結果、キーワード①で6本、②で4本が検索できたが、キーワード①と②で重複論文があった。そのため結果として本発表の分析対象となる論文はTable1のように7本となった。

4. 論文のテーマ・内容による分析

それぞれの論文を内容で分けると以下の6つになった。

(1) 日本の福祉制度改革

Suemitsu, S. (2009)は、知的障害児・者や重複障害児・者の福祉サービスの基本となる法律や制度について概略を述べている。また、Nagase, O. (2013)は、障害者の権利に関する条約批准以前のため、批准に至るまでに必要とされる日

本の福祉制度改革について述べている。いずれの論文も *Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities* に投稿されている。

(2) ソーシャルスキルを活用した性教育

Hayashi, M. et al (2011)は、学校卒業後の知的障害者を実験群と対照群とに分けて、ソーシャルスキルの内容を含んだ8セッションの性教育の内容とその効果について検討し、その有用性を明らかにしている。

(3) 知的障害者の平均寿命に関する研究

Ohwada, H. et al (2013)は、知的障害者の平均寿命が延びた要因について茨城県の公立施設に入所している知的障害者を対象に調査し、知的障害者の平均寿命は、健常者と障害者、両方の要因と関連していることを明らかにしている。

(4) ASD児の言葉に関する研究

Funazaki, Y. & Oi, M. (2013)は、ASD児52名を対象にYes/No Questionを実施した。ASD児を対象にしているが、知的障害をあわせもつ被験者も含まれているため、本発表の対象論文とした。

(5) 日本で使用されているアセスメントの動向

Ishikuma, T. et al (2016)は、日本で使われてきたアセスメントの歴史を含め、現在使用されているアセスメントの種類、動向とその課題について述べている。

(6) 知的障害児の親を対象にした研究

Kimura, M. & Yamazaki, Y. (2016)は、東京の特別支援学校に在籍している知的障害のある児童生徒の親を対象に質問紙調査を実施し、親から子どもへの体罰、親の心の状態、SOC(首尾一貫感覚)との関係について検討している。

5. 本発表の考察

教育に関するデータベースを使用したにもかかわらず、日本で学齢期に行われている知的障害教育に関する論文が検索結果としてヒットしなかった。さらに、論文内容も福祉、言語など幅広く、論文内容の傾向を特定することが難しかった。今後は、他障害と比較しこの結果が知的障害にとって特有かどうか検討が必要である。

註1)2016年の第54回日本特殊教育学会では、「海外学術雑誌における日本の特別支援教育に関するテーマー2007年以降のERIC検索結果を中心に」と題して発表した。

付記：本研究は科学研究費(若手研究(B)、課題番号15K21349)の一部として行った。(Takano, Satoko)

Table 1 海外の学術雑誌における日本の知的障害に関する論文

番号	題目	著者	学術雑誌名	年	巻(号)	ページ
1	Persons with Intellectual and Multiple Disabilities in Japan	Suemitsu, Shigeru	Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities	2009	6(2)	81-82
2	The Effectiveness of a Sex Education Program Facilitating Social Skills for People with Intellectual Disability in Japan	Hayashi, Mayumi; Arakida, Mikako; Ohashi, Kazutomo	Journal of Intellectual & Developmental Disability	2011	36(1)	11-19
3	Challenges of the Harmonization and Ratification of Convention on the Rights of Persons with Disabilities by Japan	Osamu, Nagase	Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities	2013	10(2)	93-95
4	Predictors, Including Blood, Urine, Anthropometry, and Nutritional Indices, of All-Cause Mortality among Institutionalized Individuals with Intellectual Disability	Ohwada, Hiroko; Nakayama, Takeo; Tomono, Yuji; Yamanaka, Keiko	Research in Developmental Disabilities: A Multidisciplinary Journal	2013	34(1)	650-655
5	Factors Affecting Responses of Children with Autism Spectrum Disorder to "Yes/No" Questions	Funazaki, Yasuhiro; Oi, Manabu	Child Language Teaching and Therapy	2013	29(2)	245-259
6	Intellectual Assessment of Children and Youth in Japan: Past, Present, and Future	Ishikuma, Toshinori; Matsuda, Osamu; Fujita, Kazuhiro; Ueno, Kazuhiko	International Journal of School & Educational Psychology	2016	4(4)	241-246
7	Physical Punishment, Mental Health and Sense of Coherence among Parents of Children with Intellectual Disability in Japan	Kimura, Miyako; Yamazaki, Yoshihiko	Journal of Applied Research in Intellectual Disabilities	2016	29(5)	455-467